

第23回大学教育研究フォーラム

参加企画セッション「学生の成長を可視化し、教育の質保証につなげるために必要なこと」

指定討論のテーマ：

学習者中心のコンセプトが  
「言語処理」されている教学改革の現況？

池田輝政

追手門学院大学

2017年3月20日

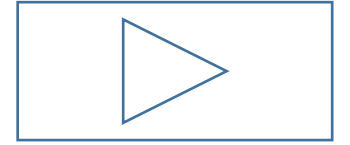
於：京都大学

自己紹介：FD / SDの組織化の方法論を実験し続ける。  
－実践コミュニティの可視化と現実化－



専門分野、学校種、職種、立場、年齢をこえて、  
アクティブラーニングの本質と向き合う授業をつくりだす人々が、  
心を開いて学び合う場が生まれました。

# 1. 追手門学院大学の教学改革のいま（1）



学院広報誌 リベルタスで発信（2017年3月）から抜粋

「ここでは教学課題の実行状況に少し触れてみます。例えば、第二領域「追大型学びのスタンダード」から分岐する「戦略計画」のなかには、①学び力検定制度を開発する、②プロジェクト型学修の充実・成果保存・発信機会を増やす、③アクティブラーニング型ゼミ・講義を開発する、④3、4年次までの成長を記録する学びのポートフォリオを開発する、の4つの全学施策があります。これらは中長期の開発案件ですが、関係部署には議論から創意へ、そして試行・修正・実動へと向かう意志と意欲が求められます。教学PDCA会議を通してわかるのは、『①学び力検定』は議論の段階、『③学びのポートフォリオ』は地域創造学部がプロトタイプへの創意と試作を進めている段階です。徐々に動きが見え始めています。」

# 1. 追手門学院大学の教学改革のいま（2）

学院広報誌 リベルタスで発信（2017年3月）から抜粋

「**教学課題の扇の要となるのが、専門教育・教養教育・キャリア教育を3本柱とする「追大版カリキュラムマップ構造」**です。これにそう教育課程の体系的整備と構築は、すでにリベルタス2016年64・65号で全学に発信され、今は2019年稼働を目途にして、すべての学部**に2017年3月末までの第一次案作成が依頼**されています。カリキュラムマップづくりの意味は、カリキュラムの全体設計のもとにこれを**学生・教職員・経営陣が共有し、追大の学びと教育をつくり込む、その考え方にあります**。ここからの一人ひとりの**真摯な取り組みこそが、追大ならではの強みをつくる教学改革の最優先課題の一つだと考えます**。」



## 2. 追手門学院大学の教学改革のこれから

教育改革推進本部（改革の司令塔）が具体的課題をP D C A

### ◎改革の基盤となるのは

**カリキュラムマップの設計とマネジメントのシステム構築**

### ◎学生中心とは

**『キャリア開発力』（学習者中心のコンピテンシー）の科目群をコアにして成長を可視化し全学で活用していく思考法の浸透**

**①自己を確認し発見し続ける力**

**②学び続ける力（日本語・英語での情報獲得、活用、着想、行動）**

**③人生を設計しセルフマネジメントし続ける力**